

我が県土
支え育む
希望郷

美しい 県土づくりNEWS

2019年

2月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第175号
平成31年3月1日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 第9回復興加速化会議が開催されました
- 3 「いわてポートフォーラム2019」開催！
- 4 復興県土づくりシンポジウム（第45回土木技術研究等発表会）を開催しました！
- 6 「岩手県被災地危険度判定士講習会」を開催しました！！
- 9 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！
【第16回】東北横断自動車道釜石秋田線が全線開通します！

いわて花巻-上海浦東 国際定期便就航 ～岩手と上海の懸け橋に～

1月30日、上海浦東国際空港からの国際定期便がいわて花巻空港に到着し、135名のお客様が来県されました。

いわて花巻空港における国際定期便就航は、昨年8月の台北線に次いで2路線目となります。

国際定期便就航により、両地域における交流人口の拡大をはじめ、ビジネスや文化の交流、相互理解がさらに促進され、友好関係が一層深まることが期待されます。



初就航した中国東方航空エアバス A320



就航歓迎セレモニー



展望デッキにて第1便を歓迎

第9回復興加速化会議が開催されました

建設技術振興課

■ 復興加速化会議について

東日本大震災津波からの復旧・復興事業の確実な進捗を目的に、施工確保対策等について意見交換する場として、国土交通大臣、被災3県の知事らの出席のもと、平成24年度から開催されています。

○ 第9回復興加速化会議

日時：平成31年1月20日（日）15:00～16:00

場所：仙台合同庁舎B棟 12階 会議室

出席者：国土交通大臣、岩手県副知事、宮城県知事、福島県知事、仙台市長 他

○ 会議の概要

岩手県からは保副知事が出席し、復旧・復興事業完了までの確実な予算措置、復興係数等の特例措置の継続等について要望しました。

出席した各県知事からも同様の意見が出され、国土交通大臣からは、復興係数を来年度も継続する旨が示されました。

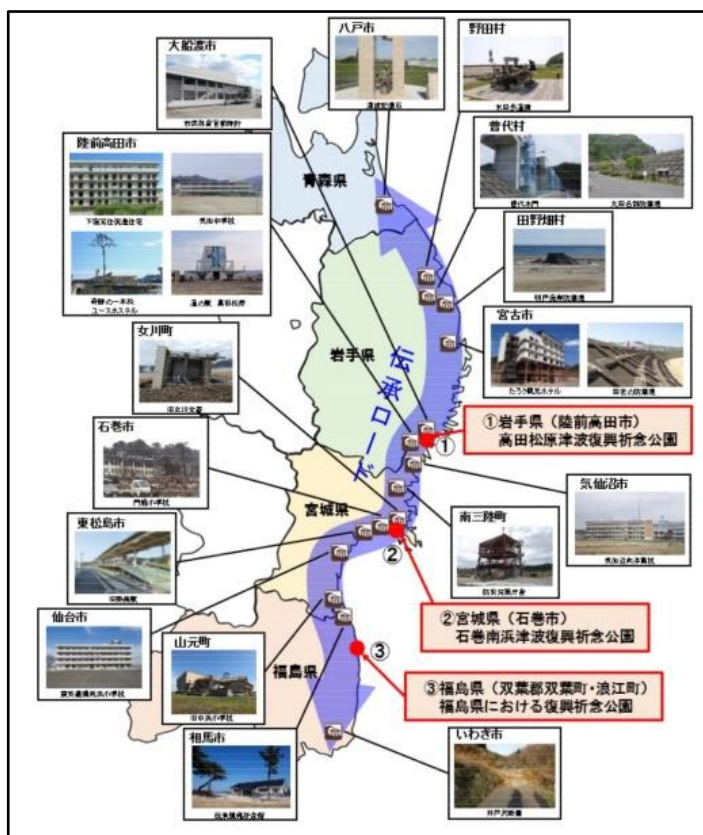
また、国土交通省から、防災力強化と交流促進による地域活性化に向け「3.11 伝承ロード」の取組が示され、各自治体と連携して取組を推進していく方針が確認されました。



会議に臨む国土交通大臣と3県知事ら（右が保副知事）

○ 「3.11 伝承ロード」について

東日本大震災の記録や経験、教訓等を伝える震災伝承をより効果的・効率的に行うためのネットワーク化に向けた連携を図ることを目的に発足した「震災伝承ネットワーク協議会」では、被災地の交流促進や地域創生、防災力の強化を図るために、「3.11 伝承ロード」の形成に向けて取り組んでいます。



統一した標章（ピクトグラム）の運用

「3.11 伝承ロード」の形成のイメージ

「いわてポートフォーラム 2019」開催！

港湾課



第1部ポートフォーラムの様子

平成31年1月31日(木)、東京都内で「いわてポートフォーラム 2019」を開催しました。

本フォーラムは、首都圏の荷主企業、物流会社及び船社に向けて、本県の震災からの復旧・復興状況や港湾利用のメリットなどを紹介するとともに、港湾利用の拡大に向けた相互交流を図るために開催しているものです。

冒頭、達増知事から、「世界と結ぶ 黄金の國、いわての港 ～新しい三陸の創造に向けて～」と題し、本県港湾の利活用促進に向けた取組、三陸防災復興プロジェクト 2019 やラグビーワールドカップ 2019 日本大会など 2019 年の三陸地域のトピックを紹介しました。また、遠藤久慈市長、山本宮古市長、野田釜石市長及び戸田大船渡市長が、各港湾の概要やセールスポイントなどをPRしました。

続いて、川崎近海汽船株の岡田フェリー部長から、「宮古/室蘭フェリー航路の展望と課題」と題して講演をいただきました。

当日は、219名の参加をいただき、本県港湾の利活用促進に向けた取組に熱心に耳を傾ける姿が見られたほか、名刺交換会や情報交換会では、参加企業と本県港湾関係者による積極的な情報交換が行われ、本県港湾の一層の活性化に向けて充実したフォーラムとなりました。



達増知事プレゼンテーション



岡田フェリー部長による講演



各港コーナーでのPR



名刺交換会での活発な情報交換



いわてまるごとおもてなし隊によるパフォーマンス



情報交換会も大いに盛り上がりました

復興県土づくりシンポジウム（第45回土木技術研究等発表会） を開催しました！

東日本大震災津波からの復興に向けた成果を共有するとともに、自治体職員や公社等職員の技術力の研鑽と向上を図ることを目的として、1月24日、25日に盛岡市「プラザおでっ」にて『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました。

会場には、市町村や県、公社等の職員のほか、応援職員の方々も含め約280名が参加し、盛況のうちに終了しました。

開催状況の概要

各所属が今年度取り組んだ9つの取組について、担当職員から発表を行いました。

土木技術の先進事例や取組状況の見える化、被災地の復旧・復興を推進する取組などについて、会場からの質疑も交えながら、それぞれの知見を共有しました。



発表論題	所属	発表者
道路改良（盛土・舗装）工事における ICT 技術の活用について	花巻土木センター	技師 小松 麻衣
一般国道 340 号「立丸峠」工区の整備について	遠野土木センター	技師 宮川 裕嗣
桜色の室根バイパス 紅葉色の柵の瀬橋 ～一関土木の「見える化」「プラス1」の取り組み～	一関土木センター	技師 金田一 徹 技師 佐々木 香織
北上川上流流域下水道北上浄化センター 消化ガス発電事業の取り組みについて	北上川上流流域 下水道事務所	技師 大森 章史
高田地区海岸砂浜再生事業の整備状況について	大船渡土木センター	技師 森山 瑞絵
川原川総合流域防災事業による「復興かわづくり」	大船渡土木センター	技師 片山 直
長部川水門土木工事における地下水の影響と対策について	大船渡土木センター	技師 中村 清高
釜石管内の水門設備工事の施工状況について	沿岸広域振興局土木部	技師 星川 晃城
根浜海岸の砂浜再生事業について	沿岸広域振興局土木部	主査 佐藤 佳之

また、特別講話として、ホーランドアメリカグループ アジアポートオペレーションダイレクターの市川紗恵氏から、「世界のクルーズ動向と日本に求められる上質な観光ツアー」と題して、クルーズ船の世界的な動向や受入れに求められることなどをご紹介いただきました。

市川氏からは、復興道路の整備により内陸へのアクセスが向上し、岩手県への寄港の魅力向上が期待されるということでした。講話を通じて、土木技術者として施設を整備するだけでなく、その後の利活用や地域の活性化についても考える機会を与えていただきました。



特別講話「世界のクルーズ動向と日本に求められる上質な観光ツアー」
ホーランドアメリカグループ 市川紗恵氏

2日目には、東北地方整備局 釜石港湾事務所 下澤治所長から、「岩手県の港湾の復旧・復興とこれから」と題して、県内港湾の津波災害からの復旧状況や、港湾整備等の直近の話題をご紹介いただきました。

ガントリークレーン整備などによる港湾の機能強化、フェリー航路開設、大型外国クルーズ船の寄港、復興道路整備による利便性向上など、港湾の利用を通じた沿岸地域の活性化が期待されます。



講演「岩手県の港湾の復旧・復興とこれから」 東北地方整備局 釜石港湾事務所長 下澤治氏



シンポジウムと併せて、県と岩手県土木技術振興協会との共催によるパネル展を実施

「岩手県被災宅地危険度判定士講習会」を開催しました！！

都市計画課

大規模災害時に被災宅地の判定活動を行う被災宅地危険度判定士の増員を目的として、主に自治体職員の新規登録希望者を対象とした「平成30年度岩手県被災宅地危険度判定士講習会」を平成31年1月28日に開催しました。

＜ 講習会の概要 ＞

今年度の講習会には、県、市町、民間から56名の方々が受講され、はじめに被災宅地危険度判定制度に係る説明を行い、次に公益社団法人全国宅地擁壁技術協会危機管理委員会委員である阿部隆逸氏から、具体的な危険度判定方法について講義頂きました。

本講習会終了後には、判定士のいなかった西和賀町、大槌町、一戸町の職員を含め、実務経験等を満たした50名が新たに被災宅地危険度判定士に登録され、岩手県内の判定士の登録総数は427名となりました。

県では、全国で頻発する自然災害に備え、引き続き被災宅地危険度判定士の養成及び災害時における判定活動の円滑な実施のため、相互の支援体制を確保しながら、判定制度について普及・啓発に努めていきます。

＜ 講習会の様子 ＞



▲講師説明状況



▲受講の様子

参 考 被災宅危険度判定制度（被災宅地危険度判定連絡協議会からホームページより引用）

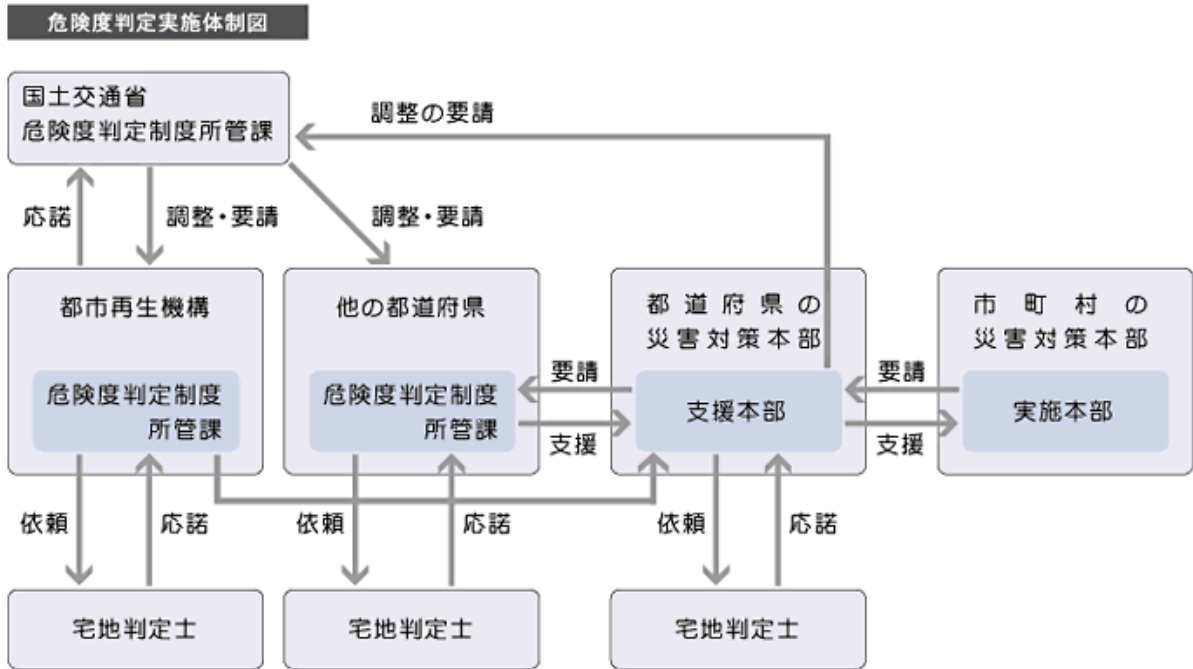
＜ 被災宅地危険度判定連絡協議会とは ＞

平成7年1月の阪神・淡路大震災での宅地災害を教訓として判定活動をより円滑かつ適切に実施するために、都道府県、政令指定都市等を会員として平成9年5月に創設された協議会です。

本協議会では、大規模災害時に宅地の危険度を迅速かつ的確に判定するために、判定方法の改善や会員相互の支援に関する調整、判定における実施体制の整備などを推進しています。

＜ 被災宅地の危険度判定制度とは ＞

災害対策本部が設置されるような大規模な地震または大雨等によって、宅地が大規模かつ広範囲に被災した場合、要請を受けた被災宅地危険度判定士が危険度判定を実施し、被害の発生状況を迅速かつ的確に把握することにより、宅地の二次災害を軽減・防止し住民の安全を確保することを目的としています。



< 被災宅地危険度判定士とは >

被災宅地危険度判定士（以下、「宅地判定士」）は、被災した市町村又は都道府県の要請により、宅地の2次災害の危険度を判定する土木、建築等の技術者です。

宅地判定士になるためには、都道府県知事等が実施する被災宅地危険度判定講習会を修了し、危険度判定を適正に執行できると認定され（もしくは同等以上の知識および経験を持つと認められ）、登録する必要があります。平成30年4月現在、全国で37,719人の宅地判定士が登録されています。

なお、宅地判定士が判定活動をする場合、身分を明らかにするため、認定登録証を携帯し、「被災宅地危険度判定士」と明示した腕章やヘルメットを着用します。



< 判定の概要 >

宅地判定士を含む2~3人が1組になって、調査票等の定められた客観的な基準により、目視できる範囲の箇所について被害状況を調査し、その結果をもとに危険度を判定します。

その際、危険と思われる宅地には立ち入らないで調査することもあります。



(1)被害状況確認(擁壁)
全体の被害状況を把握しながら、宅地の平面図、被害箇所の断面図を調査票に記載していきます。



(2)被害状況確認(宅盤)
宅地に亀裂がないか等調査し、宅地全体の被害状況を把握していきます。



(3)被害状況の詳細調査
各被害状況の詳細(亀裂の幅、傾き状況等)を調査し、被害程度に応じて点数をつけていき、各宅地の被害程度を点数化していきます。

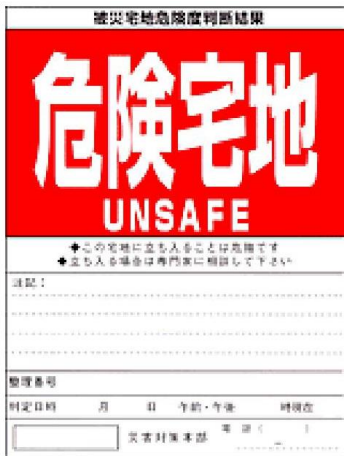


(4)調査結果の掲示
各宅地の被害点数に応じて、宅地所有、近隣の住民が余震により二次災害にあわないよう、宅地の状況を周知するため、結果票を目立つ箇所に掲示します。

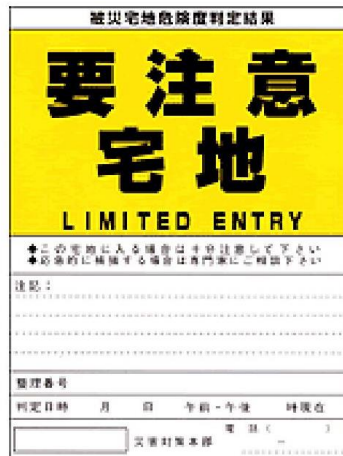
< 判定結果の表示 >

被災宅地危険度判定の結果は、下記の3種類の判定ステッカーを見えやすい場所に表示し、当該宅地の使用者・居住者だけでなく、宅地の付近を通行する歩行者にも安全であるか否かを識別できるようにします。

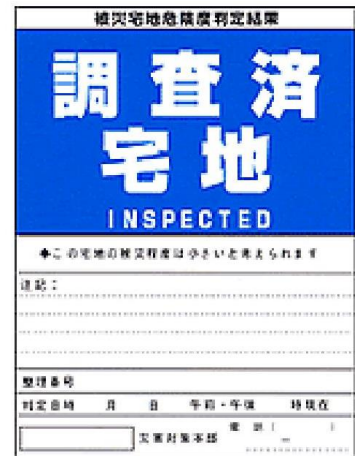
また、判定ステッカーには、判定結果に基づく対処方法についての簡単な説明や二次災害防止のための処置についても明示します。なお、判定結果についての問い合わせ先もステッカーに表示しています。



危険宅地
この宅地に入るとは危険です。



要注意宅地
この宅地に入るとは十分に注意してください。



調査済宅地
この宅地の被災程度は小さいと考えられます。

< 被災宅地の事例 >

阪神・淡路大震災



幅が15cm以上と変状の程度が大きいクラック(ひび割れ)



致命的な被害を受け、その機能を失っている擁壁(写真には写っていないが、宅盤にテンションクラックがあり、円弧すべりのおそれがある)



基礎部を含めて完全に機能を失っている擁壁



沈下量が50cm以上と、変状の程度が大きい地盤



隆起量が30cm以上と、変状の程度が大きい地盤

復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

【第16回】

釜石道特集⑤

東北横断自動車道釜石秋田線が全線開通します！

国がかつてないスピードで整備を進めてきた復興支援道路のうち、東北横断自動車道釜石秋田線（以下「釜石道」という）釜石JCT～釜石仙人峠IC間が3月9日に開通することとなりました。

この開通により釜石道は全線開通し、岩手の沿岸と内陸が初めて高速交通体系で結ばれます。また、国の復興道路・復興支援道路では初の全線開通となります。

さらに、三陸沿岸道路（以下「三陸道」という）釜石南IC～釜石両石IC間が同時開通し、釜石道と三陸道が結節し、高速道路ネットワークが形成されます。

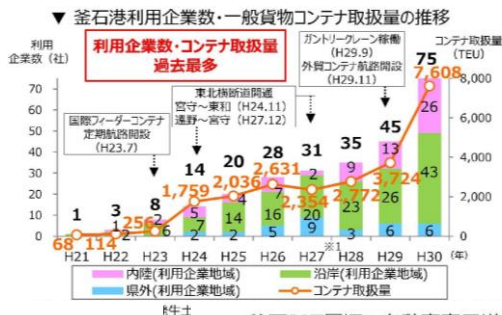


今回開通による主な整備効果

- 高速道路ネットワークの直結により復興を牽引
- 広域周遊ルートの形成による観光振興を支援
- 復興の姿を世界へ発信する『ラグビーワールドカップ 2019™』釜石開催を支援
- 強靱で信頼性の高い高速ネットワークを形成

○高速道路ネットワークの直結により復興を牽引

釜石港では復興道路等の開通や港の機能向上とともに、港利用企業数やコンテナ取扱量が増加しています。開通済区間では、国際海上コンテナ車の通行が増加傾向であり、物流道路としての機能を発揮しています。今回の開通により岩手県南部の高速道路ネットワークが直結し、物流効率化により復興を牽引します。



▼釜石JCT周辺の自動車専用道路における40t背高国際海上コンテナ車通行許可件数の変化



南三陸国道事務所記者発表資料より

○広域周遊ルートの形成による観光振興を支援

岩手県・沿岸南部地域の完工入込客数は震災後横ばい傾向の中、外国人観光客数は震災前の約7倍に増加しています。

今回開通により花巻空港や大船渡港などの交通拠点とのアクセス性及び周遊性の向上により、沿岸地域の持続的な観光を支援します。

▼岩手県・沿岸南部地域の観光入込客数の推移



《世界遺産を巡る観光ルート》

世界遺産 平泉(平泉町) 世界遺産 橋野鉄鉱山(釜石市)

中尊寺 (平泉町入込客数: 216万人/年) 大船渡港 (釜石市入込客数: 28万人/年)

南三陸国道事務所記者発表資料より

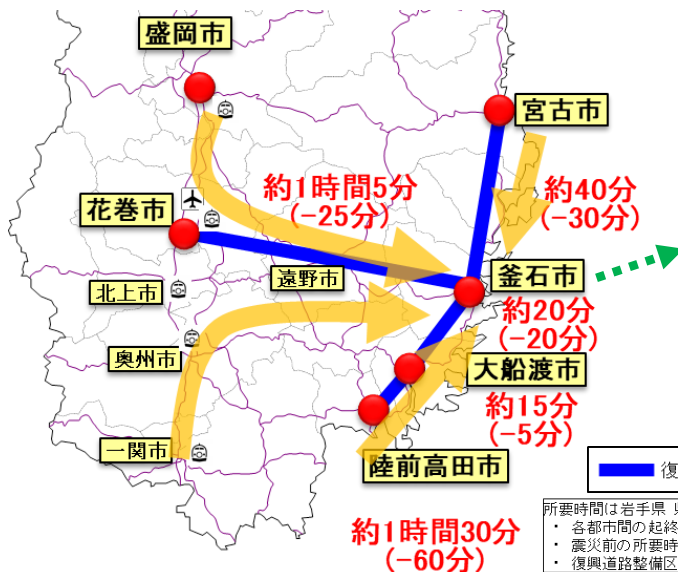
〇復興の姿を世界へ発信する『ラグビーワールドカップ2019™』釜石開催を支援

釜石市は「ラグビーワールドカップ2019™」の東北で唯一の開催地で、チケットは「プラチナチケット」とチケット販売は好調で注目度は高くなっています。

県や釜石市は、東日本大震災津波における支援への感謝と復興の姿を世界に発信します。

道路整備により、会場から宿泊施設や交通拠点（空港・駅）などへのアクセス向上が図られ、大会の成功を支援します。

▼釜石道全線開通及び三陸道宮古以南開通後の所要時間の変化（震災前との比較）



所要時間は岩手県 県土整備部 道路建設課が以下の条件により算定したもの
 ・各都市間の起終点は、各都市最寄りのICまたはJCTとした
 ・震災前の所要時間は、H22道路交通センサスより算出(データの無い区間は規制速度等)
 ・復興道路整備区間は、道路構造に応じた速度により将来の所要時間を算出

〇強靱で信頼性の高い高速ネットワークを形成

東日本大震災津波では、津波被害により国道45号等の幹線道路の一部が流失したことから、内陸部からの救命・救援ルートを確認する「くしの歯作戦」を実行しました。

東日本大震災津波
 当時は、国道283号等の一般道を活用して救援・救助活動が行われましたが、釜石道（自動車専用道路）の全線開通により、更に信頼性、確実性、速達性のある道路になります。



6 出典：東北地方整備局 震災伝承館HPより
 南三陸国道事務所記者発表資料より